

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立加茂高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和4年6月28日(火) 15:00~18:00
- 3 開催場所 岐阜県立加茂高等学校同窓会館2階会議室
- 4 参加者

会長	長尾 陽一郎	全日制PTA会長
副会長	松井 彰良	ウィンズコーポレーション代表取締役
委員	角田 雅彦	ツノダ住工取締役
	尾関 里佳	主婦(地域代表)
	道浦 アドリアーナ	定時制教育振興会長
	松尾 和樹	可児市議会議員 NPO法人縁塾
	武市 由紀子	元特別支援学校校長
学校側	井藤 勝夫	校長
	大島 達史	副校長
	伊藤 強	事務部長
	小林 竜二郎	教頭
	田内 俊文	教頭
	吉川 敏幸	教務主任(全日制)
	尾関 清光	教務主任(定時制)
	酒井 宏昌	生徒指導主事(全日制)
	武藤 秀彦	生徒指導主事(定時制)
	山中 徹也	進路指導主事(全日制)
	渡辺 純也	進路指導主事(定時制)

5 会議の概要(協議事項)

(1) 令和4年度教育指導の重点及び学校経営計画について

学校側より、「学校教育目標」、「スクール・ポリシー」、「教育指導の重点」、「重点目標の達成に必要な具体的取組、方策」、「達成度の判断、判定基準あるいは評価指標」について説明。

意見1:本年度、本校は入学志願者数が定員をオーバーし第二次選抜が行われなかった。本校は地域に選ばれる学校となっている。スクール・ポリシーには本校の魅力が盛り込まれている。

(2) 各分掌における令和4年度の具体的な重点目標について

教務主任、生徒指導主事、進路指導主事が、令和4年度重点目標について説明。

<教育課程・学習指導について>

意見1:「手帳の活用」とは、具体的にどのようなことか。

⇒市販の手帳を利用し、課題や連絡事項などのメモやスケジュール管理等に活用させている。使用状況を一週間に一度定期的にチェックをしている担任

もいる。導入4年目である。活用について、全員にガイダンスを行っている。

ポートフォリオとして学びの足跡を記入し、面接対策に役立てる場合もある。

意見2：コロナ禍で密を避けなければならないが、机が小さく距離が近いように思われる。環境を整えてほしい。

意見3：授業の様子を見て、7限にも関わらず、居眠りをしている生徒が一人もいなかった。

<生徒指導について>

意見1：全日制の遅刻指導は、遅刻の原因を細かく分析し、不注意が原因の遅刻への指導がなされている。このようなきめ細かい指導により、遅刻の常連を出さないという成果となっている。

意見2：定時制の生徒の様子が落ち着いてきている。この状態を継続してほしい。

意見3：定時制の生徒について、放課後、近くのコンビニに大勢で集まり一般客が入りづらいという話を聞いたが、状況を教えてほしい。

⇒ 学校にも電話があり、職員が何度か見回りを行っている。すべてが本校定時制の生徒ではなかったが、生徒には迷惑をかけることがないよう指導している。生徒は、指導に対して素直に従っている。

意見4：協働的な授業が実施されているが、一方で全体の流れに乗れず息苦しさを覚えている生徒もいると思われる。生徒一人一人への目配りをしてほしい。

<進路指導について>

意見1：昨年度、共通テストが難化し、国公立大学をあきらめてしまう生徒も出てくる中、本校の教員が連携して一人一人の生徒に向き合ってくれた結果、著しい進学成果が得られた。

(2) 令和4年度総合的な探究の時間全体計画について

1、2年生においては、普通科は「地域課題研究」、理数科は「課題研究」の取組を実践し、課題を見つけ、主体的に解決する力を育成する。3年生では、「進路学習」を中心に進路実現を目指す。

意見1：地域との連携は、小中学校から高校へと繋がっていくとよい。また、地元の企業と関わっていくことで、関東や関西に進学したとしても、将来地元に戻ってきてほしい。

意見2：地域連携について、SDGsと関連した取組は行われているか。

⇒ SDGsを前面に出しているわけではないが、生徒の興味・関心が重なる部分もあり、結果としてSDGsに繋がる活動となっている。

意見3：1年生で実施している地域探究活動の一つ「地域の大人と語る会」は、本年度から新たに導入した教材「ローカス」と絡めて、年間計画の中でどのタイミングでどんな内容で実施するのが効果的かを考えていくことが大切である。

6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の学校運営基本方針について承認が得られた。今後は本年度の具体的目標について得られた意見を参考にして、組織的な教育実践を行う。探究活動については、地域とのつながりを大切にした実践を行い、大学への入学だけを目指するのではなく、大学へ入ってから学びの気持ちを持ち続け、さらに社会へ出てからも伸びる生徒の育成を目指す。